

つべつまち物語

NO. 48

つべつまち物語～津別町 in 阿幌岳～網走川～オホーツク海

松浦武四郎の記録書アバシベツ（網走川）で津別町の地名が詳細に紹介されている。安政五年（1858）に釧路を発ち、阿寒湖畔を周遊し「網走越」を超えて津別町に足を踏み入れ、利加バシ川（相生）から布川、沼沢、双葉、共和、西達美、弁慶岩を通過してカクミ（岩富）で四軒を認め、美幌川端へ出。

網走川（流程 93.6km）は津別岱（木禽岳）の西方に並立する阿幌岳（978m）から本流がここに発源し、津別～美幌～大空～網走～オホーツク海に注いでいる。

網走川の支流は津別の地形の特徴である扇状に沿って成り立っている。東岡から小沼沢川、最上からタコブ川、上里から津別川、恩根からおんせき川、チムケップ湖からチムケップ川、二又からケミチップ川そして相生の上流から本流へと続いている。川の名前はアイヌ語からきている。

網走川の流域には、肥沃な農耕地が拓け、津別町の農業を発展させている。また、大正時代には、網走までの木材輸送の唯一の路として、流送が盛んに行われていた。写真は相生本流林道、活汲橋下流。



やさい歳時記● 玉葱播種始まる。

北見地方は全国有数の産地で、生産量日本一です。

弊社も玉葱の生産を始めました。有機こだわり栽培で、ギフト・ふるさと便にて発送します。

